

# アラブの子どもとなかよくする会 活動のご報告

2003年10月16日～2004年1月13日

## < 白血病に苦しむ子どもたちに薬の支援を継続 >

国際機関やNGOが次々とイラクを立ち去り、病院への支援も減ってきたという10、11月に、日本からは白血病に苦しむ子どもたちを支援しようというNGOや個人が次々とやってきました。アラブの子どもとなかよくする会は、そういった日本人たちと連絡を取り合い、前回の活動に引き続き、アル・マンスール小児教育病院とセントラル小児教育病院のがん・白血病病棟に「今、もっとも必要な薬」を届けました。

## < 不足する医薬品 >

今回は、事前に必要とされている薬についての情報やそれを購入するのに必要な処方箋の準備ができていたため（JVC との協力で）アンマンで購入してから、バグダッド入りすることができました。さっそく、アル・マンスール病院で最も不足していたFortum（抗生剤）200本を届けると、「1ヶ月で500本は必要」とのことでした。（この薬は日本人がアンマンで購入して届けるものを除いてはどこからも入ってこない。）200本は2週間で尽きてしまう。ちょうど半月後にアンマン入りしたNGOに協力を依頼し、届けてもらったところ、「よかった。あと5本しか残っていなかった。」ということでした。

病院の薬品倉庫を見ると、以前よりは薬や器具の量が増えたように感じましたが、イラク保健省からの薬の供給状況は安定せず、依然不足状態が続いていました。（必要量の50%程度しかないという。）医師たちと次にどの薬を買ってくるか打ち合わせをしている最中に連絡が入り、「たった今、保健省から1か月分届いたというので、他の薬にしよう」といったようなこともしばしばありました。（電話が通じていないバグダッドではこちらが病院に出向かない限り、医師とちょっとした連絡をすることもできない。まさに、絶妙のタイミングだった！）

また、同様に大勢の白血病の子供たちが治療を受けるセントラル小児教育病院では、6MP（抗がん剤）が不足状態。（一般の病院を見ても、保健省から1か月分として配給された薬が、たった5日分の量しかない病院、15日分はある病院と、それぞれ状況が異なり、必要とするものも違っていた。）そこで、今回支援したバグダッドの2つの小児病院のがん・白血病病棟へはこまめに通い、医師から必要な薬の要望を聞き、日本から寄付金を運んできてくれる人や他のNGOと連携して薬を寄付しました。（「今週で薬がなくなる」「この薬が足りない」という話を聞いてはインターネット・カフェにかけ込み、寄付してくれる人や運んできてくれる人を探したり、アンマンまで出掛けて行ったりした。）



白血病の少女と母親（「今日は調子、どう？」という問いかけに少女は「お願いします。誰か私を助けてください。」と訴えた。）



写真：病院に届けた抗ガン剤（Fortum）

## < イラクでは手に入らない高価な薬 >

白血病の治療に必要な薬は高価で、イラク国内にはないため、アンマンまで買いに行かなければならず、まとまった数用意するには多額の資金が必要です。「いつも、少ししか持って来られなくてすみません。」と言い訳しながら寄付していました。病院に押し寄せる大勢の白血病の子ども、「薬をください。日本へ連れて行って治療してください。」と訴える親たち、いつも不足状態の薬や医療器具、衛生的とはいえない病室・・・を目の当たりにしては、私たちの運ぶ薬など「焼け石に水」と、いやでも思い知らされるのです。でも、たとえ、ほんの一滴の水でもイラクには必要です。一つの病院の血液検査用プレパラート、チューブなど1月分を\$100でバ

## イラクと日本の子どもの交流

日本の子どもたちから託された手紙や美術・書道作品を、バグダッド市内の小中学校で紹介し、日本の子どもへのメッセージや絵をかいてもらいました。

日本からイラクの子どもたちへの励ましの言葉や平和へのメッセージ、日本文化や学校の様子を紹介した絵や文章、政治や戦争についての意見など、さまざまな内容のものが届きました。

それぞれの学校で出会った子どもたちは、窓ガラスのない電気もつかない、寒く薄暗い教室で元気に勉強していました。ノート、鉛筆などの文房具は学校を通じて配られ、教科書は新しいものが足りず、サダムの写真のページを切り取って、古いものを使っていました。(サダム・ファンだといって切り取らずに使っている男子生徒もいました。)

日本の子どもの絵を使って紙芝居風に日本の紹介をしました。「ご飯」「はし」「着物」などの日本文化については多くの子どもや先生が「おしん！おしんで見た！」と言います。「外国人が来たのは初めて。やっと新しい風が入ってくる。」という校長先生もいました。「どういふ方法で作ったのか？コンピューターを使ったのか？」と版画作品に見入っている美術担当教師もいました。

日本に送るためにイラクの子どもたちが描いた絵には、ラマダン明け休日の遊園地の様子やチグリス川と果樹園などがていねいに描き込まれ、戦争を思い起こさせるも

グダッドの間屋で買ったので、「あまり多額の寄付はできないが、何か支援したい」という人にはこういうものをお願いしました。病院のラボラトリーを見せてもらくと、1980年代の検査機器がずらりと並び、4,5台のうち1台、または最近寄付してもらったものだけがかろうじて稼働しているという状態でした。5年前に期限の切れた検査薬とわかっていても使うしかない。「こんな状態では正しい検査結果など出るわけがない」検査技師がつぶやいていました。

病院の設備の改善・薬の供給などに対して、国レベルの大きな支援の計画があると聞きました。しかし、いずれも「いつになったら始まるのかわからない。治安がよくなる限り無理だろう。」ということです。子どもたちが安心して、十分な治療を受けられるようになる日が早く来ることを祈るばかりですが、イラクの現状は当分の間、それを許してくれそうにありません。それまでの間、だれかできる人が支えていかなければなりません。嬉しいことに、セントラル小児教育病院の白血病専門医の医師イブラヒムは「日本人の持ってくる6MPがなかったら、何の治療もできなかつただろう。」と病院内の会議で発言されたそうです。また、アル・マンスール病院からも「(海外からの支援が減って)危機的だったこの2、3ヶ月間の、日本人のネットワークによる薬の支援に感謝する」という言葉をいただきました。

細々とした私達の支援もイラクの人たちの励ましになったのだと思うと、とても嬉しい、イラクの人たちが自分達の力でやっていけるようになるまで、支援を続けたいと思います。どうか、さらなるご協力をよろしく願います。



刑務所の跡地に移り住んだ子どもたち(バグダッド郊外)



のは思いのほか少なかったのです。そのことを教師に話すと、「頭の中にある夢や希望をかいているだけ。実際は毎晩、悪夢にうなされ続けているのよ。」という答えが返ってきました。また、ある学校では職員室で、「早く平和になりますように」という日本の小学生のメッセージのついた作品を見せたところ、「日本政府は軍隊を送ってくるくせに、しらじらしい」「未来？希望？イラクのどこにあるのよ？」

と先生方と討論になりました。女子中学生が「電気がなくて家で勉強できません。治安が悪いので学校に安心して登校することができません。何とかしてください。」と訴えてくる一幕もありました。現地の子どもや先生たちと、もっと話したかったと思うと同時に、日本の子どもや先生たちがこういう事実を知ったら、どう思うのだろうと考えると、興味深いものがあります。

一人でも多くの日本人



アル・イーマン女子小学校の生徒（日本へ送る絵とメッセージをかいた。）

に（子どもに限らず）イラクやアラブを身近に、そこに住む人々を自分の友人として考えるきっかけとして、このような交流に参加していただけたらと思います。

途中から学校訪問に許可が必要となったこと、治安上の問題などあって3校しか訪問できませんでしたが、記念として各学校に配布したものを除いては、シンドバッドクラブに展示してもらう方がより多くの子どもに見てもらえるだろうと考え、JVCを通じて届けてもらうことにしました。シンドバッドクラブはまだ略奪され、荒らされたままの状態だそうですが、オープンするときに展示会をしてもらえるようにお願いしました。

## イラクの人からのリクエストです

### バグダッドの幼稚園の先生から

「日本の幼稚園の教育課程やどのように教えているかということに興味があります。できれば幼稚園の様子をビデオに撮って送ってください。」

### イラク支部長ワリードの妹のカリマから

（英語が得意で手紙や日本の紙芝居のアラビア語訳を手伝ってもらった。翻訳家志望。）

「日本のストーリーはとても美しい。イラクでもっと日本の本や紙芝居を紹介したい。わたしが訳すので、送ってください。」（英語訳がついているとなおよい。）

### 当会の運営を手伝ってくださる方を大募集

写真や絵画の整理、報告書の編集など事務作業を手伝っていただける方、またホームページ立ち上げにご協力いただける方、ご連絡をお待ちしています。

pagi12151@yahoo.co.jp または 090-1614-3520 までお願いします。

# 会計のご報告

寄付金総額	\$ 26,375
当会への振込みによる寄付	\$ 20,463
当会への現地での寄付	\$ 5,912
支出総額	\$ 26,229
残高	\$ 146
(単位 USドル)	

(内訳)

バグダッド アル・マンスール小児教育病院及びセントラル小児教育病院

10月18日	抗生剤	\$ 2,927
11月20日	抗生剤	\$ 5,947
11月24日	抗生剤	\$ 20
12月17日	抗がん剤・抗生剤	\$ 4,713
12月30日	抗がん剤・抗生剤	\$ 11,330
1月7日	抗生剤	\$ 514
1月12日	抗生剤の購入寄付をJVCの原氏に委託	\$ 400
	合計	\$ 25,851

アル・アーダミヤ女性コミティーへの活動資金の支援\*1

1月10日	子供ためのイベント資金として	\$ 100
	合計	\$ 100

ストリートチルドレンへの支援\*2

10月から1月まで	衣料・食料費用として	\$ 87
1月13日	衣料・食料費用として高遠氏に委託	\$ 200
	合計	\$ 278

\* 1 バグダッド市内のアル・アーダミヤ地区の11の分区から代表として選出された女性たちが、地区の女性の自立促進(セミナー、識字教室、裁縫教室) 貧困家庭や両親のない子どもの支援をめざして活動を行っていた。リーダーのバトゥールは敬虔なシーア派イスラム教徒、この治安状況にもかかわらず、タクシーでどこまでも出かけていく行動派である。8月に出会ったとき、「大きな資金が無ければ何もできない」と言っていたが、12月には\$ 81の寄付金をやり繰りして、両親のない子供40人を招いてパーティーを開催していた。小さくても自分達にできることをしようと頑張っている女性達に経過報告をすることを約束し、\$ 100を寄付した。

\* 2 パレスチナホテル裏の路地で20人ほどの少年達が生活している。ぼろぼろの衣服でその多くがシンナーをすっている。彼らの惨状を見かねた日本人たちが「冬着や食料を買ってあげて。」と託してくれた寄付金で、主に食べ物(ホブズ、米、野菜、果物、チーズ、卵など)やサンダルやろうそく、洗剤などを時には少年たちとともに購入、残金は現地でケアを続ける日本人ボランティア高遠さんに託した。

## アラブの子どもとなかよくする会

〒181-0002 東京都三鷹市牟礼6-12-13 伊藤方

郵便振替：伊藤政子 00170-1-613360

お問い合わせについて：当会はボランティアにより運営されています。電話：090-1614-3520

Eメールにてお問い合わせいただければ、最新の情報などお送りいたします。 [pagi12151@yahoo.co.jp](mailto:pagi12151@yahoo.co.jp)

2004.1.31発行